

■ 平成 27 年度第 1 回羽曳野市総合教育会議 会議録 ■

1 日 時 平成 27 年 6 月 26 日（金）午後 1 時 00 分～午後 1 時 55 分

2 会 場 羽曳野市役所 別館 3 階 特別会議室

3 出席者	市 長	北川 嗣雄
	教育委員長	内本 和彦
	教 育 委 員	麻野 多美子
	教 育 委 員	菊井 孝三
	教 育 委 員	金銅 真代
	教 育 長	高崎 政勝

4 事務局	市長公室理事	白形 俊明
	政策推進課長事務取扱参事	南口 修二
	政策推進課課長補佐	辻村 真輝
	政策推進課主幹	内本 修平

5 関係者	教育次長	村田 明彦
	学校教育室長	清水 淳宅
	教育総務課長	森井 克則
	教育総務課課長補佐	桒井 恵美

6 会議内容

【次第 1：開会】

ただ今から平成 27 年度第 1 回羽曳野市総合教育会議を開催いたします。

平成 27 年 4 月 1 日に改正「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が施行されました。これに伴いまして、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、地方公共団体の長と教育委員会との連携の強化、地方に対する国の関与の見直し等制度の抜本的な改正が行なわれたところです。

今回の法改正の趣旨を踏まえ、本市におきましても、「羽曳野市総合教育会議」を設置し、市長と教育委員会が調整・協議を進め、連携を強化することにより、十分な意思疎通を図り、本市の教育やあるべき姿を共有して、効果的に教育行政を推進していきたいと考えております。

【次第２：市長挨拶】

<北川市長>

本日は、第１回目の羽曳野市総合教育会議ということで開催させていただきました。皆様よろしくお願いいたします。

これまで本市は、教育委員会との連携については、教育長や教育委員長をはじめ、教育委員の皆様とも連携を図っており、この教育総合会議の設置によって、より一層連携が深まり、また私の思いや考えを直接教育委員の皆様にお伝えすることができることから、いい方向に向かうものと思っております。全国的には教育問題が色々取りざたされているところであり、そういった問題も解消されていくのではないかと期待しています。そういった意味で、総合教育会議は、非常に大きな意味を持つものと認識しています。

これからの本市の教育行政をより一層充実させるため、私の意見を述べさせていただき、また教育委員の皆様のご意見もお聴かせいただきながら、いろいろと意見交換することによって、効果的な教育総合会議にしていきたいと思っておりますので、是非ひとつよろしくお願いいたします。

【次第３：議事事項（１）羽曳野市総合教育会議の運営等について】

<事務局>

事務局から、地方教育行政の組織及び運営に関する法律における総合教育会議に関する事項、羽曳野市総合教育会議の運営等・会議の傍聴について、資料１、資料２及び資料３によって説明を行い、承認を得た。

引き続き、事務局から、総合教育会議の概要について、資料１に沿って説明を行った。

【次第３：議事事項（２）羽曳野市教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定等について】

<事務局>

事務局から、大綱の策定等について、資料４に沿って説明を行い、策定に係る工程、スケジュール等について承認を得た。

～以下、質疑・意見交換～

<麻野委員>

大綱に関して、策定する事項として、資料には６つの分野が挙げられていますが、大綱の策定内容は、この分野に限られるということですか。

<事務局>

ここに挙げている 6 つの分野は、第 5 次総合基本計画における教育行政に関連する分野を列挙させていただきまして、あくまで案としての想定です。大綱では、これらの事項に限って策定するというものではありませんので、こういった分野、また大きな方針を立てていくかを、この会議で協議いただきたい。

<高崎教育長>

国からは、教育振興基本計画を策定している団体にあつては、それを大綱に位置づけてもよいとの考えが示されていることから、幅広いものが対象になってくると思います。

<麻野委員>

大綱では、詳細な方針を定めていくのか、あるいは、大きな方針を定めていくのですか。

<高崎教育長>

大綱の中身に関しては、これからの会議において協議していくということになります。ただ、大綱のイメージが湧きにくいので、事務局から既に他団体で策定された大綱を示していただきたい。

<北川市長>

それでは、大綱につきましては、このような工程・スケジュールで進めさせていただきたいと思います。

【次第 4：その他】

<麻野委員>

今回、総合教育会議が設置され、市長と直接話し合いができるということは、非常に有益であり、率直な意見交換をさせていただきたいと思う。

<内本委員長>

西部地区において検討されているこども園は、羽曳野独自の取り組みとして進めていくということでしょうか。

<北川市長>

今回のこども園は、今後の少子化が進んでいく将来を見据えて、検討を進めています。現状は、園舎などの基本設計を行ったところで、これが出来上がってきた段階で、みなさんにお示しをし、ご意見等を頂戴して、実施設計に入っていきたいと考えています。

これまで羽曳野の幼稚園施策として、「1 小学校区 1 幼稚園」という考え方のもと

14 幼稚園を設置し、整備を進めてきました。しかし、これからますます人口が減少し、少子化が進んでいくことが予想され、幼稚園施設の在り方もこのままで良いのかを考えていかななくてはならない。一方で、保育園の入園希望数は横ばいで推移しており、女性の社会進出、共働き家庭の増加、核家族化などの要因もあって、保育ニーズはまだ高いと理解しています。そういった状況下において、市としてどういった対策を講じていくか、また園児教育はこのままで良いのか、といった思いがあります。

また、就学前の子供たちにおいて、保育園と幼稚園で学ぶ内容や方針が異なることから、小学校に上がった段階で、いわゆる「小1のギャップ」といったギャップが取り沙汰されているが、近年そのギャップが顕著に表れているのではないかと考えています。そういったギャップを少しでも早く解消するために、本市は学童保育に職員を意識的に派遣し、力を入れている。家庭においても、親の就労実態が多様化していることから、帰りが深夜になったりすれば、子どもとふれ合う時間が非常に少ない、親として子供たちに教育したいこともできない、といったこともあり、そのようなことが社会状況として表に出てきているように思う。

そのような状況下で、これからの幼稚園と保育園をどのように運営していくのか、この場で、教育委員さんからご意見等をいただくことは有難いと思っている。

<高崎教育長>

全国の学力学習状況調査において、本市の児童は家庭での学習時間が比較的短い、家庭での教育が十分でないといった結果がでており、そういったところに光を当てていくことが非常に重要なことだと思っています。当然、学校は学校としてやるべきことをきっちりとやっていかなければならないし、また家庭は家庭でやっていかなければならないことがあり、そこが一緒に合わさって、両輪で教育を進めていかなければならないと思っています。

<内本委員長>

今回の西部地区のこども園は、本市で初の試みとなるものであり、市民からも期待が高いと思われる。教育委員会としても、しっかりと進めていきたいと考えており、先進市に視察に行くということも報告を受けています。どのように運営していくかなど、しっかりと市長部局と協議・調整しながら、前に進めていきたいと思えます。

本市として、子育て・教育に関して重点的に取り組むために、今年度から幼稚園部門を市長部局に移し、保育園部門と統合を図られたと思いますし、小学校に上がった段階での学力が府内では低いところにあるため、教育委員会としてもしっかり対応していきたいので、市長と連携しながら進めさせていただきたいと思えます。

【次第５：閉会】

<司会>

本日は、本市の第１回目の総合教育会議として開催させていただきました。これにて、閉会とさせていただきます。

次回は、臨時開催がない限りは、９月～１０月頃に開催させていただきますので、よろしくお願いいたします。本日は、ありがとうございました。